

 **日本臨床歯周療法集談会 (JCPG) 第32回学術大会に参加して**

いいだゆうた  
**飯田雄太**

医療法人D&H かめだ歯科医院  
 〒332-0015  
 埼玉県川口市川口4-2-41-101



午前の若林先生による講演。悪天候にもかかわらず多くの参加者を集め、活気のあるディスカッションが行われた。

日本臨床歯周療法集談会 (JCPG : JAPAN CLINICAL PERIODONTAL GROUP, 小林和一会長) の第32回学術大会が11月8日に東京医科歯科大学 M&D タワー2F 大講堂において開催され、あいにくの天候にもかかわらず、約250名の参加者が集まった。

同会は昨年度より「歯を残せる歯科医院を目指す！」というメインテーマに5年間継続して取り組むこととしており、昨年度の EPISODE I 「再生療法」に続いて今年度は EPISODE II 「医院の総合力が歯を守る」と題して学術大会を開催した。同会は、歯科医師、歯科衛生士が共に講演を聴くことのできる数少ない会であり、スタッフも一緒に参加することで歯科医院全体のレベルアップを目指している。今回も医院単位での参加が目立ち、個人のみならず「医院の総合力」を高めようという意欲がひしひしと伝わってくる大会であった。

「学会ではなく集談会である」というコンセプトのもと、それぞれのセッションごとにコメンテーターを中心に参加者を交えた活発なディスカッションが繰り返され、参加者の意識の高さが窺われた。

■ **合同セッションで感じた**

**若林歯科医院の総合力の高さ**

午前「歯周治療における歯科医

師と歯科衛生士のパートナーシップ」として、若林健史先生（東京都）と、そこで20年来勤務されている主任歯科衛生士の児玉加代子氏、若手歯科衛生士の吉田弥栄氏が、歯周治療における院内での取り組みに関する講演を行い、コメンテーターを亀田行雄先生（埼玉県）と安生朝子氏（栃木県勤務）が務めた。

まず、若林先生と児玉氏から院内での歯周治療の流れ、医院全体のレベルアップの取り組みについて解説されたが、「“医院の総合力が歯を守る”とはまさにこのことだ」と痛感する内容であった。その後、吉田氏より重度歯周炎患者の症例提示があり、最後に若林先生から20年経過症例や根分岐部病変症例などが提示され、「われわれ歯科医院と患者との良好な関係を築くこと」が重要だとまとめた。

■ **歯科医師・歯科衛生士それぞれの分科会では、より専門的に**

昼休みにポスター発表がなされた後、午後から歯科医師と歯科衛生士に分かれてのセッションとなった。

歯科衛生士の分科会では「関野塾—知識と臨床のリンク」と題し、塾長として関野 愉先生（日本歯科大学准教授）、コメンテーターとして

安生氏を迎え、川上庸子氏（新潟県勤務）、徳高 奏氏（京都府勤務）、足利奈々氏（広島県勤務）、安田真奈美氏（千葉県勤務）より症例が提示され、歯の保存における歯科医師による診断と歯科衛生士による見解の差異についてディスカッションが行われた。

歯科医師の分科会では「天然歯にこだわりたい！—移植・再植の可能性—」をテーマに、まず、梅津 修先生（東京都）より移植の際の歯根膜に注目し、歯周組織の再生がなされた症例の提示があった。次に、齋間直人先生（神奈川県）より、移植前処置としてのエクストルージョンの目的、利点に関する症例提示がなされた。

最後に、福西一浩先生（大阪府）による総括講演が行われた。先生は、近年のインプラントの発展により歯の保存に対する“こだわり”が薄れてきたように感じる、と指摘し、「簡単に抜歯を行い、インプラントを選択する前になすべき治療があるのではないかと問題提起された。移植、再植、矯正などを駆使して歯を保存することにとことんこだわる福西先生の姿に、会場全体が感銘を受けた。